

平成22年度「認知症対策専門委員会」開催報告

1 開催状況

第3回	内 容
2 / 8 (火)	報告事項 第4期市民後見人養成事業について 小・中学生向け認知症サポーター養成講座の実施について 平成21年度「ものわすれ外来」受診者調査の結果等について

2 主な協議事項

以下の項目について、事務局から報告を受けた。

(1) 第4期市民後見人養成事業について

認知症高齢者の増加に伴い、成年後見制度のニーズが高まるなかで、家族や専門職後見人の不足を補完する目的で、平成19年度からスタートした社会貢献型市民後見人養成事業の、これまでの実績と活動状況について報告を受けた。

その他、1月に開催した「市民後見人」を目指す人のための講演会の報告や「第4期社会貢献型市民後見人の養成プロセス」等についての説明を受けた。

(2) 小・中学生向け認知症サポーター養成講座の実施について

今年度の新規取り組みである小・中学生を対象としたサポーター養成講座の実施状況について、児童・生徒のアンケート結果や感想など、紙芝居の実演と併せて報告を受けた。

委員からは、今後の課題として、高齢者の多い地域の学校を選んで実施してはどうか、子どもたちに、介護体験を話せる人材の養成も検討してはどうかとの意見が出された。

また、認知症サポーターに対する活動場所の紹介やフォローアップ講座の実施、地域で誰に支援を頼めばいいのか分からない人のために、こども110番のような目印となるものを作ってはどうかとの意見が出された。

(3) 平成21年度「ものわすれ外来」受診者調査の結果等について

平成21年度中に、ものわすれ外来協力医療機関に、ものわすれを主訴として受診した2,057人の調査結果について報告を受けた。

また、ものわすれ外来協力医療機関に対し、アンケートにより医療機器などの情報収集を行うとともに、鑑別診断やかかりつけ医へのアドバイス等に対する自己評価を求めているとの説明があった。

委員からは、受診者調査で、若年性の患者についての情報を把握しているのであれば、本人の就労に関する問題や介護する家族への支援など、総合的に検討して欲しいとの意見が出された。